

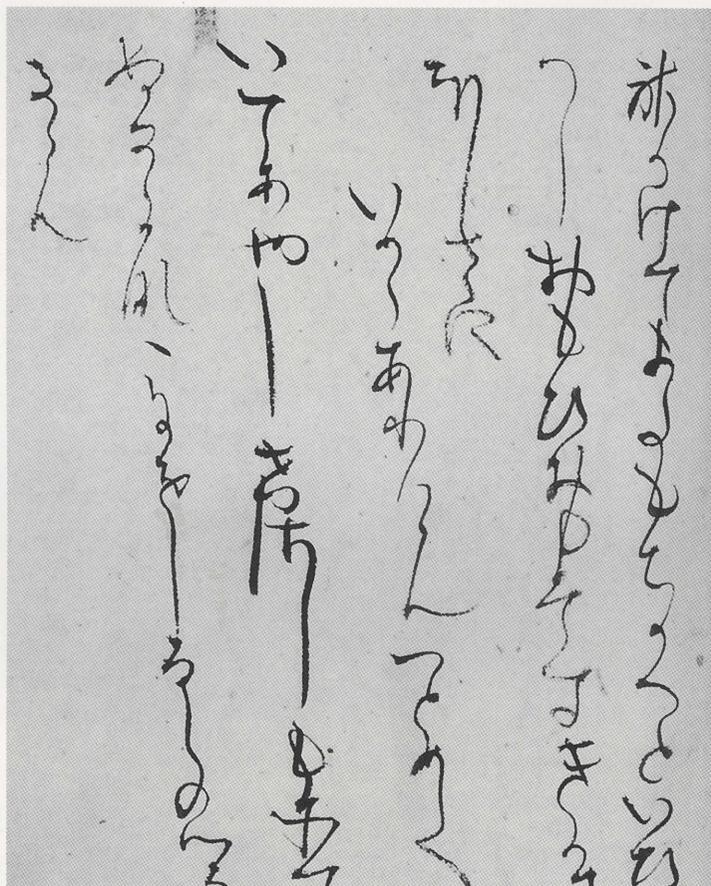
書道芸術

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
平成十九年二月二十五日
平成十九年三月一日
発行 印刷

(毎月一回発行)

書道芸術

第五五一号



特集：現代女流書100人展

551 '07.3

財団法人
書道芸術院

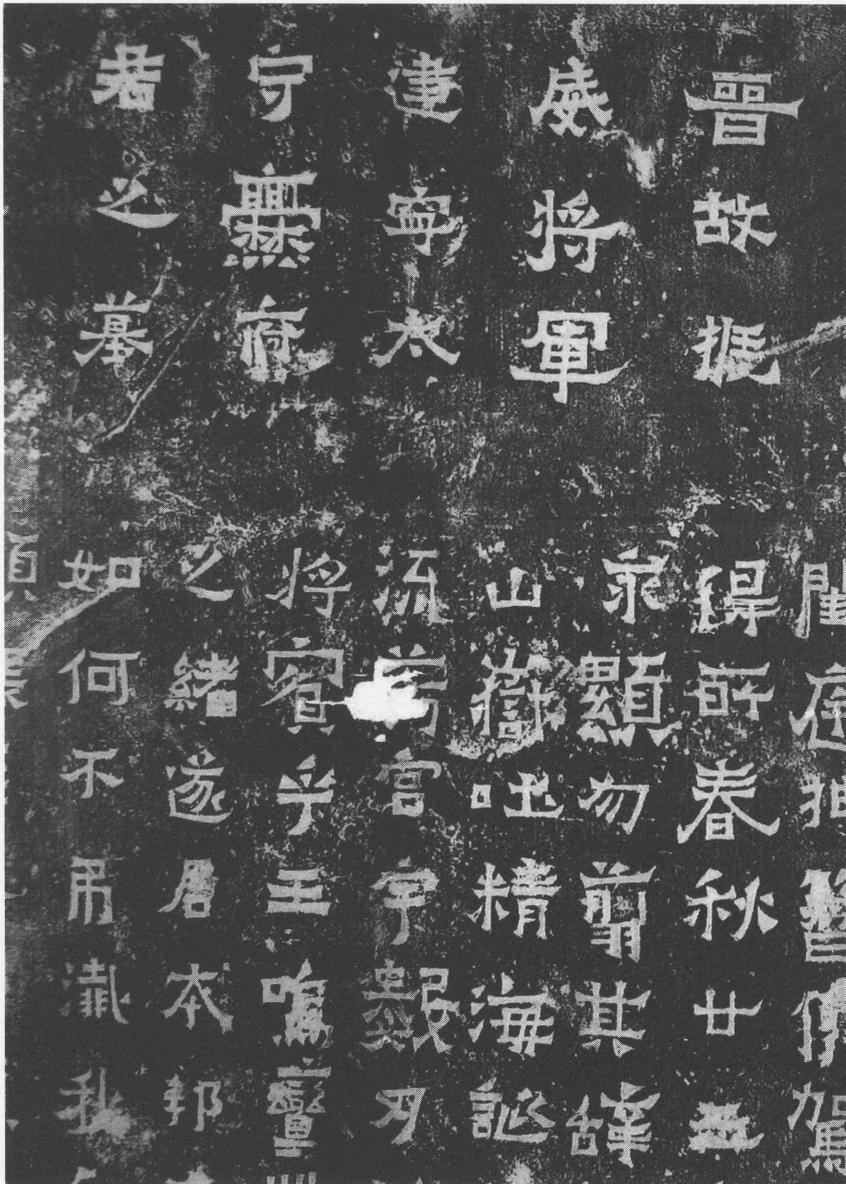
爨宝子碑

さんぼうしひ

四〇五年（東晋・大亨四年）



▲ 碑額拡大



▲ 朱拓本

木 雞

金石書画拾遺 (15)

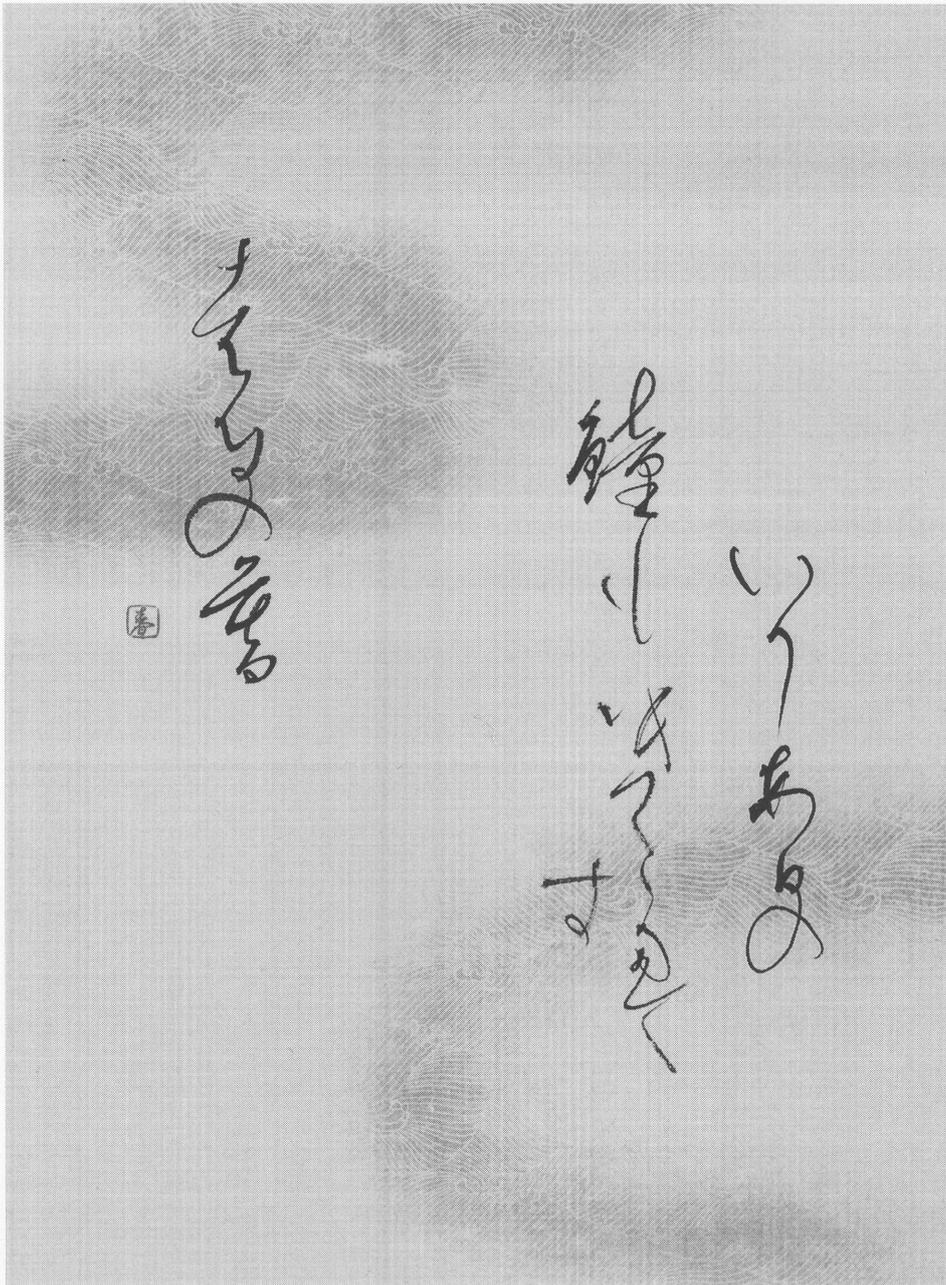
木 雞 室

伊 藤 滋

『爨龍顏碑』とともに二爨碑と称せられる。ともに中国の南方の雲南省にある。清朝の乾隆四十三年に発見された。この書風は、実にはすがすがしく生き生きとして、碑額の文字などは今にも飛び出してくるのではないかという印象を感じさせる。文字の起筆は楷書であり、横画の終筆などは、隷書の波磔のように力強く押し出している。文字の全体構成は隷書的であるが、筆の運びは楷書である。当時の通用体の楷書を善くする人が、古い様式の隷書体を書こうとして生まれた書風ではなからうか。近代に入り、六朝体の北魏書に魅力を見いだした碑学派の人々に好まれたのであろう。多くの拓本が取られたのであろうか、原拓本を目にする機会は多い。しかし、このような朱拓本はそれほど多くない。

かな規定 初段以上【四月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判(料紙可)

朝倉春江選書



よみ方 いりあひ(日)の鐘もき(幾)こえ(盈)ず(寸)は(者)るの暮 芭蕉

創作

習い方解説 (六)

朝倉春江

入逢の鐘もきこえず春の暮

(芭蕉)

夕暮れ時に、鐘の音でも聞こえればこの単調な物憂さが晴れるだろうに、物音もせず、春の夕べがただ静かに暮れていく。

字数の少ない俳句ですが、一行の中で、二字連綿、三字連綿または四字連綿というように連綿する字数の変化によって、短い行の組合せでも行の変化はできます。

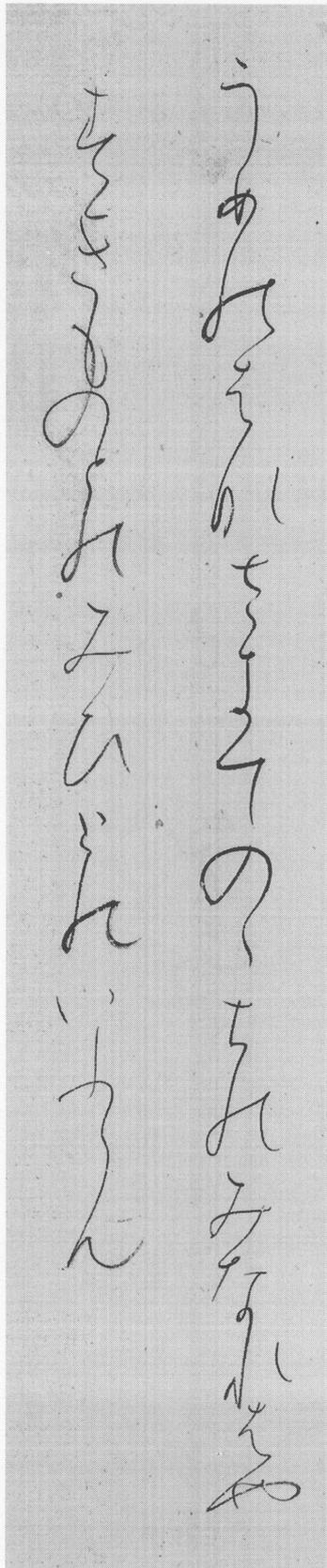
さらに行の高低のつけ方で静的になるか動的になるかも違います。ここでは下の句を上部に掲げて明るいスケール感を出しました。

また、どの漢字を生かすかによって呼吸の高まる所も変わり、全体の表現が左右されてきます。いろいろと工夫してみましよう。

かな規定 秀級以下 【四月二十日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連続)を臨書する。

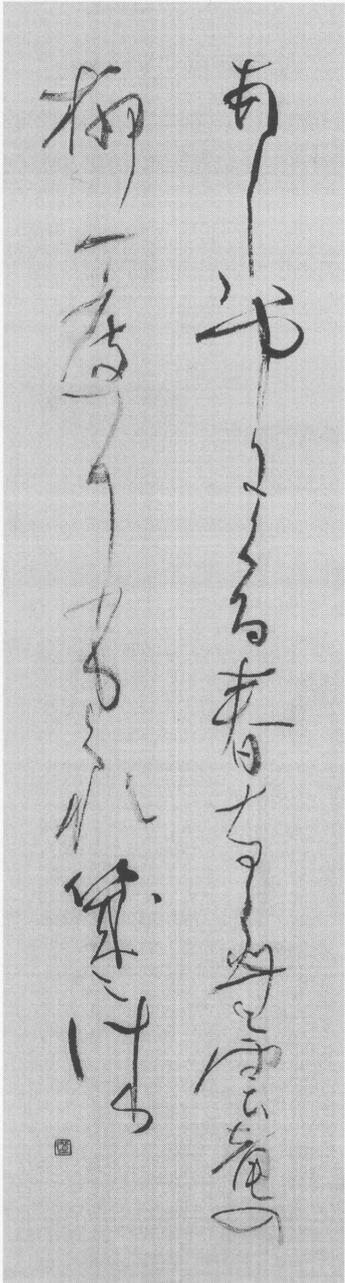
高野切第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 うめの(能)は(者)な(那)さき(支)ての(能)みなれば(者)や
す(春)きもの(能)みひとの(能)いふらん

かな条幅規定 【四月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切(料紙可)

田村澄子選書



よみ方 あしば(八)やに(尔)く(久)る春な(奈)らん(無)雲竜の
柳一度に(耳)ふ(布)く(久)れき(幾)に(二)けり(利)

創作

習い方解説 (三)

田村澄子

あしばやにくる春ならん雲竜の
柳一度にふくれきにけり

(大井 広)

半切で和歌、一般的に二行書きは、基本的な形式、しかし平凡にならず、立体的に動きのある作品にしたい。大切なことは、潤筆、渴筆、空間、特に二行目の行頭は墨が少くなるのでゆっくり展開して隣どうしの響きを試みてくださ

*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【四月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

西林乘宣選書

春眠不覺曉 處處聞啼鳥 夜來風雨聲 花落知多少
未見雨聲 花落知多少

春眠不覺曉 處處聞啼鳥 夜來風雨聲 花落知多少 (唐詩)
(春眠曉を覚えぬ 処処啼鳥を聞く 夜來風雨の聲 花落つること知る多少)

書体||自由

漢字条幅規定 秀級以下 【四月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

広瀬舟雲選書

天門中斷 楚江開 碧水東流至北迴
碧水東流至北迴

天門中斷(断)楚江開 碧水東流至北迴 (李白)
(天門中斷して楚江開く 碧水東流北に至りて廻る)

書体||自由

習い方解説 (六)

西林 乘宣

担当の最後になりました。行と草を織り交ぜた一般的な作品です。条幅の章法は、静かにスタートし、徐々に盛り上げ、二行目の上2・3字は濁らし、そのあと墨つぎをして山場を、そして静かにおさめる一です。よほどの字も皆頑張ったり、小さい半切に二か所も三か所も伸ばす人がおりますが、相殺されてマイナスです。半切程度では伸ばすのはせいぜい一か所で十分です。

習い方解説 (六)

広瀬 舟雲

まとめとして、躍動する線と繊細な線の組み合わせ、文字の大小、墨の潤濁をはっきりさせるなどいろいろの要素を複合的に取り入れてみました。再度、胎毛筆を用いました。穂先で紙を切るようにして書くとき細く鋭い線が出ます。濃墨で連筆すると鶏毛筆と同様に飛白が現れ、複雑に筆先が絡み合った味わい深いかすが生じます。

ペン字規定【四月二十日締めきり】

石井明子選書

つれづれに、あつちまゝに目ぐら
視にむかひて心にうつりゆく
よーながーいよをそこはかとなく
書きつくればあやうそもの
ぐるほーけれ

徒然草序段

裕美書

用紙はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体＝自由

習い方解説 (六)

石井明子

徒然草は、中学、高校でも触れ、かなの学習者は基本を学んだ後の腕ならしによく使われる手本です。親しみ易い所を葉書大にまとめてみました。

やさしい字形を用い、二字連綿まで使用しました。連綿は速書きのための実用の意味と、視覚的に美しい流れをねらう意味があります。しかし、ぎこちなくなるようでしたら無理をせず、一字ずつを丁寧に書いた方がよいでしょう。

内容のよい詩歌や文章等を書いていくうちに、硬筆の作品は、毛筆に劣らぬ芸術性を帯びてくると思います。

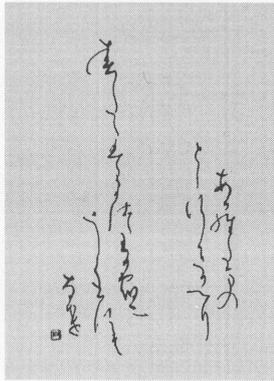
機会があれば、「かなの連綿」の基本を学んでください。硬筆の字が必ず変化してくると思います。毛筆だけが上手な人が時々いますが、その心配りは用具にはよらないのです。書くことの奥深さも楽しさもそうなのです。

※落款を入れ忘れないようにして下さい。(落款は自分の名前を入れてください。)

かな部 師範 小山 尚子

柔らかい筆を適格に用い、大きな呼吸で起伏のあるリズムを練り、美しい墨法も相俟って見事な作。

◎かな部総評 比較的硬い毛筆の細字の筆は、おろし方が足りないと早くかすれたりギスギスします。筆を再度見直したい。(洋子評)



漢字条幅部 師範 阿部 恵泉

潤濁のバランスよく安定した作。行書を主体にした展開は無理がなく、品よくまとまった。

◎漢字条幅部総評 下級7文字表現はやや難しかったか。粗さ目立つもの多し。上級の二行書きを含め練度高い作を望む。(大雲評)



現代詩文書部 特選 鈴木 香生

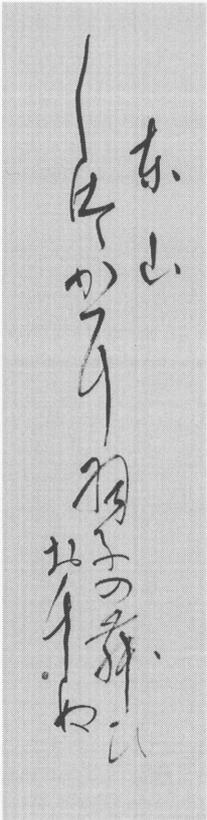
紙を切るような鋭い線質で作品構成も良く、白が美しい。練度の高い運筆で風格がある。

◎現代詩文書部総評 今月は全体的に誤字作品が多かった。気を引き締める事。(素雪評)



かな条幅部 師範 栗原 信子

粘度の強い線がしなやかに伸び、布置のよさに一層深い味わいを感じさせます。落款印が美しい。



前衛書部 特選 馬場 孝子

濃墨での線の切れ味冴えて、大作の感あり見事です。

◎前衛書部総評 前衛書でも大切な線であり普段の古典古筆の勉強の中から生まれてくることを念頭に入れて制作を。(如水評)

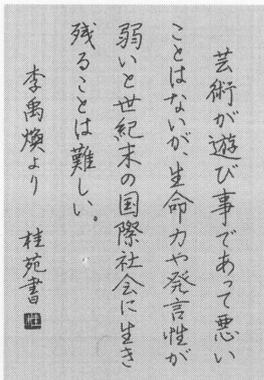


◎かな条幅部総評 全般に墨量の変化が乏しく、墨色が冴えないものが多かった。落の誤字多く残念。字は正確に。墨汁厳禁。(明子評)

ペン字部 師範 西村 桂苑

沈静した線で書き伸びやかさもあふれる。品位ありしみじみと深い味わいとゆとりを感じる、優美作。

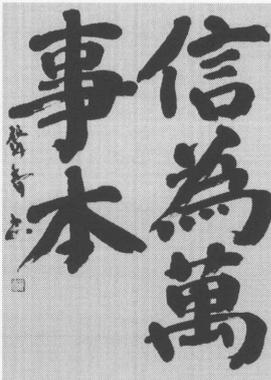
◎ペン字部総評 課題訂正がありました。60回展前ですが各自研鑽なされ充実の作が多くありました。(京華評)



漢字部 師範 米倉 馨香

おおらかに、どっかりと坐った豊かさがよい。顔法の呼吸を自分のものにして安定感がある。

◎漢字部総評 よく練習できて書き込んでいる人は安心して見られる。「習うより慣れる」という。練習量は多い程よい。(春洋評)





千葉紅雪書

漢字

〔玄穹〕千葉紅雪

「石火光中」

◆筆のもち味を充分に生かし、また墨色に反映されている。上の石のスケールの大きさが光で止ってしまう感がする。このバランスを考えて。(倫子評)

◆長鋒を存分に操り、墨色の研究に余念がなく、佳境に入った雰囲気は、ものづくりの一人としては羨しい。さらに狂気に向ってほしい。(明子評)

◆宿墨、長鋒の味わい十分。軽快で明朗な筆の遊びもよいが、遊びは遊び。技を殺した生き様の見える作品を拝見したいと思うのは私だけか。(春洋評)

◆明るい青淡墨の味わいが直線を主体とした表現に冴えを与えて妙。やや軽すぎる感あり。長鋒筆の破筆にもう少しくい込みがあればと思う。(大雲評)

現代詩文書

〔声香〕米倉聲香

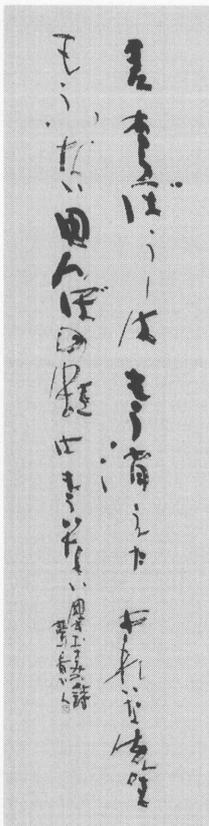
「麦わらぼうしは…」

◆奇を衒うことなく、一見淡々と表現された自由さが好ましい。潤濁は自然なリズムを作り、字粒の変化が見事。巧まずして生まれたのか？(明子評)

◆濃墨を沈めて坦々と書き進める。潤濁の構成も自然で明るい。平凡な中に滋味のある作品となった。人生や書に対する姿勢に共鳴する。(春洋評)

◆素直な書きぶりは自然な変化を醸し出して楽しい作である。潤濁の変化が紙面にリズムを与え、左右の余白と響き合って爽やかな作となる。(大雲評)

◆体が動き出すような墨の変化は書く人の心に歌が乗り移っているよう。印の位置も作品全体にしまりをつけるようにピリッと決まっている。(倫子評)



米倉聲香書



工藤山房書

前衛書

〔若葉〕工藤山房

「芽ぶき」

◆線の動きの中に速さを感じる所と、反面ゆるやかに収めてある所があり横の流れを上手に表現見事です。押印をもう少し丁寧にしてください。(倫子評)

◆左から右へのリズムは重厚さと共に渴筆による明るさが調和して明解な作となった。一気呵成に気魄こめた運筆は冴えがあり快作。(大雲評)

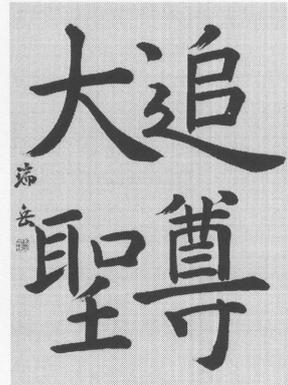
◆力強い発筆から冴えた線を駆使して快調に書き進める。右辺終盤は静かさもある造形、横長の構成として成功した作。(春洋評)

◆題名からは色々なことが想像されます。小さな所に目を向けながらの表現ですが、私には天翔ける龍に見えます。繊細さと大胆さが美事。(明子評)

漢字研究部
(孔子廟堂碑)

選評名越蒼竹

今月のホープ作品



祐川瑞岳

漢字研究部 特選 祐川 瑞岳
 整齐で緩みのない字形と連筆である。穩やかではあるが一点一画がゆるぎなく、骨力充実。鋼鉄を真綿で包んだような線質は、原帖の本質を見事にとらえている。「しんじよう」の二画目に迷いが見られるのが惜しい。
 ◎漢字研究部総評
 孔子廟堂碑は特長が出しにくい。ただ形を整えるだけでは他の初唐の楷書と変わりがな

く、穩やかさと上品さを表現しようとするれば弱さにつながってしまう危険性もある。要は始筆と終筆を穩やかにしながらも、送筆部をいかに充実させ張りのあるものに表現できるかがポイントであろう。拓本によっては気脈が切れ、甘い線質のものがあるので、その選び方も重要と思われる。臨書には原帖に対する真率な態度が必要であると肝に銘じたい。

創業亦
崇師敬

纂堯中
葉追尊

亦崇
師敬

追尊大
聖乃建

有晉
崩離

亦崇師
敬胙土

亦崇師
敬胙土

當塗創業亦
崇師敬胙土

追尊大
聖乃建

斯盛
有晉

當塗
創業

崇師敬
胙土錫

亦崇師
敬胙土

當塗創業亦崇
師敬胙土錫圭

纂堯中葉追尊
大聖乃建褒成

亦崇
師敬

纂堯中葉追尊大聖乃建
褒成膺茲顯命當塗創業
亦崇師敬胙土錫圭禮容
斯盛有晉崩離維傾

中葉
追尊

當塗
創業

崇師敬
胙土錫

敬胙土
錫圭

有晉
崩離

纂堯中葉追尊大
聖乃建褒成膺茲
顯命當塗創業亦
崇師敬胙土錫圭
禮容斯盛有勳臨

師敬胙
土錫圭

幽愛抱洋由雅
景子遊子規子

春美清千千晃
峰芳子美子石

朱僊華岳郁香
沙雨祥峰子月

紫淑澄政松
勳子仙子鳳

特別昇級試験

一、しめきり日 5月20日(日)

春季作品募集は、左記の通りです。

- 漢字 一種、二種
- かな 一種、二種、三種
- 漢字条幅 一種、二種、三種
- かな条幅 一種、二種
- ペン字 一種、二種
- 漢字、かな条幅、ペン字の三種は、秋季募集となります。

第二種 (計二枚)

楷 孟法師碑 (指定箇所より4文字を臨書)

行 春鳥暢^{のつ}歡情^{のつ}
よき春に鳴く鳥の声を聞いて歡樂の情を舒暢する。

かな部 (半紙二枚に長に使用 料紙可)

かな部創作は、かな・漢字変更自由。

第一種 高野切第一種

(半紙一枚に指定の歌を二首書く)

第二種 (計二枚)

臨書 和漢朗詠集

創作 (半紙一枚に指定の歌を二首書く) 岩すべる水にうつつず椿かな (高野素十)

第三種 (計三枚)

臨書 高野切第三種

創作 (半紙一枚に指定の歌を二首書く) 寸松庵色紙

臨書 寸松庵色紙

創作 (半紙一枚に指定の歌を一首書く) たて12.7cm×よこ12.4cmの枠(原寸の大きさ)を半紙に書いて、その中に書くこと。

第三種 (落款は右枠内・外どちらでも可) 別紙を裁断して貼付は不可。見渡せば比良の高嶺に雪消えて若菜つむべく野はなりにけり (平兼盛)

三、課題文字と用紙

創作文字は新旧(字体どちらでも可) ※漢字・かな・漢字条幅の臨書作品は3月号(今月号551号)写真掲載の中から「指定文字数」を臨書。

漢字部 半紙二枚に長に使用

第一種 (二枚)

楷 九成宮醴泉銘 (指定箇所より4文字を臨書)

第二種 (計二枚)

楷 顔勤礼碑 (指定箇所より14文字を臨書)

行 一聲啼鳥破^{しや}春寂^{せき}
數點落花生^{しや}春寒^{かん} (翁朗)

第三種 (計三枚)

楷 池春暖^{あたたか}魚出^{いさな}

行 翠帳風和見^{あはれ}鶴翔^{つばさ}

草 聖教序 (指定箇所より20字を臨書)

行 聖教序 (指定箇所より14字を臨書) 小画仙紙半切二枚に長に使用 料紙可

かな部 (一枚) 窓あけて見ゆる限りの春惜心 (高田蝶衣)

第二種 (計二枚)

創作 春の夜や籠り人ゆかし堂の隅 (松尾芭蕉)

創作 たちそむる霞の衣うすけれど春きてみゆる四方の山の端 (藤原公経)

ペン字部 (一枚)

楷・行 (計二枚) 良寛の書は、自作の詩や和歌を書いたもの、あるいは手紙など、いずれも飄々とした筆致で脱俗の趣がある。 (出典：日本書道辞典より)

四、名前のかき方

◎どの部も氏名または名、号を書く。印だけでは失格、特になか・ペン字は注意のこと。

五、受験料

- 第一種 一、〇〇〇円
- 第二種 二、〇〇〇円
- 第三種 三、〇〇〇円

◇昇級試験用振替口座、または現金書留で納入。

六、審査結果と昇級

成績に応じて、次の通り昇級させる。第一種は、最高秀級まで。第二種は、最高二段まで。第三種は、最高師範まで。

七、応募手続

- 1 出品票はバーコード出品券を使用。作品の右下に、一枚毎につける。(三種には三枚つける) 現段級とは552号(4月号)の段級。作品二枚以上ある時は、右上をホチキスまたはのりでおとめる。
- 2 支部の方は、名簿形式にします。受付番号をいれ、お送りします。
- 3 個人で受験希望の方は、
- 4 ①受験の申し込みをする
- ②申し込み先 〒101-0031 千代田区東神田1-16-7 芝崎ビル三階(財)書道芸術院書道芸術編集部・特別昇級試験係(宛)

・80円切手貼付、住所、氏名明記の返信用封筒を同封のこと。(受験番号を記入した個人専用の応募書類を送付します) ③送付された応募書類に必要事項記入の上、作品に添え応募する。

備考

・受験申込み締切りは4月30日。・応募書類は5月1日以後に発送。

晉故
威將軍
守禦府
者之墓

君諱寶子字寶子建寧同興人也君少秉德備之曾其極高經之探通曠曠情怡王薄揚賢
發自天必冰潔簡靜道行葦汀粹之德其晉歸仁其樂唱於名獨乘阜集不歸事益慎
閭序抽簪佩駕朝朝詠歌州生薄治中別奪繁秀本郡太守寧撫跟度物物西曹陳勤
得所春秋廿五寤疾喪其味痛人百其躬情愷中相與銘論休場今終都督文社崇
永類勿翦其輝
山嶺出精海詛隨光線後復震碧瑯琊弱冠稱仁詠歌期痛在隆喜和慶開
流皆言字毅牙值得其猶譽隆成致耀與空揚鳴朝羽儀
將容乎王鳴警紫閣其境玲浪在庚子乘襲維同翳周道絆馬身能故放位不畫佐劉兒
之緒遂居本邦志難方照道隆黃靈靈保南岳木譽不劣身不承一置始倡善仗劉兒
如何不用流我自良回相聖安影命不長自非益石榮相有當幽潛容音携手
頽張至人想江湖相忘於穆不已肅雍顯相來惟平素感勵操陳林康混矣
今名誌窮美銘斯誄庶在甘棠嗚呼哀哉

大享四年歲在己巳四月廿四日

原在... 大享四年... 歲在己巳... 四月廿四日

小史... 威儀...

競書出品規定

締切日 4月20日

●規定部

部門	字	漢	な	か	漢字条幅	かな条幅	ペン字
段級位用紙	初段以上 半紙	秀級以下 半紙	初段以上 半紙	秀級以下 半紙	初段以上 半紙	秀級以下 半紙	師範級 はがき サイズ
書体・内容	創作 (書体自由)	創作(楷書)	創作	臨書 (写真掲載部 分を全て書く)	創作 (書体自由)	創作 (書体自由)	書体自由

●前衛書部 審査委員は現代詩文書部 出品不可

半紙縦使用に限る、一人一点 (尚部門に出品できる)

●研究部 (審査委員は出品不可)

部門	漢字研究	かな研究
出品資格	審査委員 候補以下 (審査委員 は不可)	審査委員 候補以下 (審査委員 は不可)
用紙	半紙 たて	半紙 たて
書体・内容	掲載の古典 の臨書、文字 数自由(掲載 部分以外の 箇所は不可)	掲載の古筆 の臨書、歌 一首以上を 書く、全文 も可(掲載部 分以外の箇 所は不可)

●特別研究部 (審査委員も出品可)

特別研究作品		出品資格	用紙	内容
誰でも 出品可 (審査委員 を含む)	小画仙 半切・ または 70×70 センチ 以内、 縦横自 由	漢字・かな・ 現代詩・篆 刻・前衛書 の各部門を 含んだ創作 作品、競書 (篆刻は印 影に落款を 入れて応募 ※各部を通 じて一人 一点。)	刻字は不可	内容

※特別研究作品 出品券を貼付
「特別研究作品」出品券は使用で
きません

●出品資格 高校生以上

●月例競書作品出品の心得

- 一、締切日必着厳守
- 二、月別出品券を貼付していないバー
コード券は認めない
- 三、月別出品券のコピーは不可
- 四、(一)初めて出品のときは「新」
(二)二回目出品のときは「10」
(三)〇印は昇級
(一級上の級を書く)

(四)「締切後着」・「段級不明」・
「課題違反」・「落款なし」
の作品は審査対象外とし、氏
名を掲載しません。

※▲印段級誤記入

●バーコード出品券についてお願い
* 作品からはがれないように、右下
にしっかりと貼り付けてください。
* 月別出品券の部別を間違えないよ
うに貼ってください。
(※スティックのりははがれやすい
ので、ヤマトのりを)使用ください。
* 記入する数字は、
級位は算用数字1、2、3…
段位は漢数字 初、二、三…
で書いてください。
* 級位の方は、出品する月の本誌
(最新号) で成績を調査確認の上、
級を記入してください。確認できな
いときは、現在級を書き「未調査」
と明記してください。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区
東神田一―一六―七
神田芝崎ビル三階

財団法人書道芸術院

電話(〇三)三八六二―一九五四
FAX(〇三)三八六二―一九五七

お問い合わせ、ご連絡は、
月曜日～金曜日九時～十七時の間に
お願いします。(土・日・祝日は休み)

送料

一か月の購読部数が
1部～9部までの一回の郵送料

1部	68円
2部	84円
3部	92円
4部	100円
5部	116円
6部	124円
7部	140円
8部	148円
9部	156円
10部以上	送料免除

平成十九年 二月二十五日印刷
平成十九年 三月 一日発行

定価 一部 六五〇円

編集兼 恩地春洋
発行人 恩地春洋
発行所 株式会社リンクス
印刷 小沢写真印刷株式会社
発行所 (財)書道芸術院
〒101-0031 東京都千代田区東神田一―一六―七
電話(〇三)三八六二―一九五四
FAX(〇三)三八六二―一九五七
振替 〇〇一五〇四―一三五〇五八
http://www.hins.co.jp/shogei/

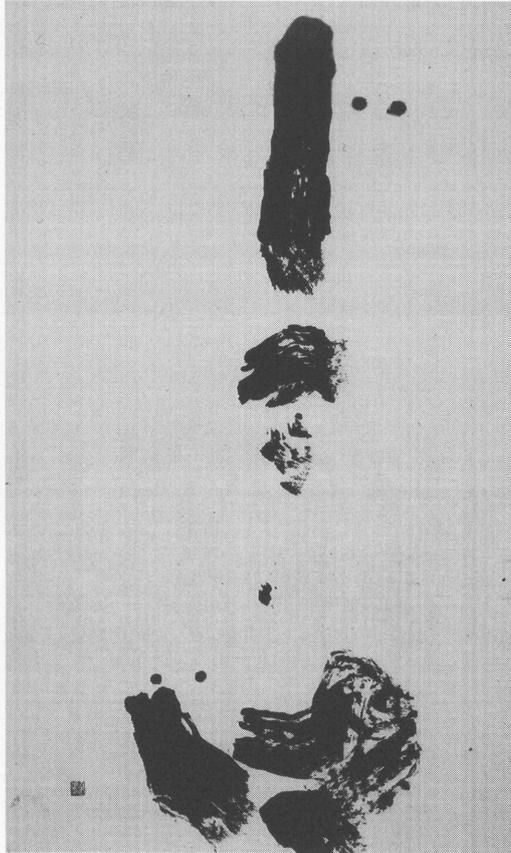
書道芸術院 創立発起人 (12)

「行雲」



書は勝つか、負けるかの勝負の世界だ。
相手は無限だ、甘い!!

「言」



書とは書けば響き、打てば響く。
見ろ!! 空間を、線を、響を!!

上田 桑鳩 — 現代書のパイオニア —

1899 (明治32)年〜1968 (昭和43)年。兵庫県吉川町生まれ。本名・順。比田井天来に師事し、現代書運動の先駆ともいべき書道芸術社を結成。続いて奎屋会を創設する。

1947 (昭和22)年11月、書道芸術院の結成に参画し、翌年の第1回書道芸術院展、第4回展まで本展に出品し同年8月、書道芸術院を脱退。

桑鳩は常時、造形性の高い作品を目指して、広汎な古典研究を基礎に、時代思潮や諸芸術の成果を摂取しつつ、現代書(墨象)への道拓く。

桑鳩は人間的スケールの大きさ、表現の多彩さにおいて、現代書のパイオニアだと騒がれた人物だけに、ひとつの書風に安住することなく、この道を貫き通す。

殊に桑鳩は、書表現の本質を「線」に置き、書線のリズムと構成に注目し書を文字性から解放し、純粹な造形芸術としての認識を深め、書は芸術であるのか、どんな範疇に入る芸術なのかを理論的・実践的裏付けによって芸術としての書の確立を図る。

とにかく、桑鳩の業績はあまりにも偉大であり、墨魂の巨匠として、その名が永遠に光り輝く。

1968年9月4日逝去 行年69歳
叙勲 従五位 勲四等小綬章

(浜谷芳仙記)

書のひろば

理事長 恩地 春洋

全日本書道連盟の概要 —平成19年度の活動—

2月15日、全日本書道連盟の理事会在如水会館で行なわれ、本年度事業の
大綱が決定した。

1、事業計画

- (1)書写書道教育の確立
- (2)書道の振興、奨励のための文化活動

・夏期書道大学講座の開催

8月3日(金)～5日(日)

日本青年館 新宿区霞ヶ丘町

・書道講演会の開催

日程・会場未定

・書道文化の海外との交流

中国との書道交流

中国書法家協会と綿密な連絡

2、本年の理事会・総会

〈次回予定〉

5月17日(木)

11・00～13・40 理事会

13・50～15・20 総会

15・30～ 懇親会

如水会館

役員の改選

懇親会

3、本年度役員

理事

恩地 春洋

事務局次長

辻元 大雲

委員

石井 明子

4、全書連を支援する団体

(1)維持団体

書道芸術院ほか

(17団体)

(2)賛助団体

黒潮書道会

名久井裕三

馨 香 会

香川 倫子

玄 遠 社

恩地 春洋

山陰書道研究所

水谷 鴨村

書 徑 舎

浜谷 芳仙

書 泉 会

下谷 洋子

石 心 会

鳥山 岳風

玉 松 会

石井 明子

白 玄 会

外所 思水

白扇書道会

種谷 萬城

社団法人筆の友書道会

大野 祥雲

賛助団体として院の11団体が入会して全書連の活動を支援しています。

総局、支局関係で入会頂ける社中があれば院の辻元常務理事までお問い合わせください。(年会費 3万円)

尚、個人会員として入会もできます。

・正会員 年会費 一、二〇〇〇円

資格 毎日展会員以上が原則

特典 文芸美術国保に加盟できます。

〈沿革〉

昭26・4 日本書道連盟創立

発起人 豊道春海ほか6名

昭28・2 「社団法人日本書道連盟」

昭48・2 中村梅吉理事長と青山杉雨

飯島春敬、金子鷗亭、香川峰雲、村上三島氏の会談を

機に、書壇一本化に動く。

昭48・7 「社団法人 全日本書道連盟」

に改組され、中国との交流の窓口として認められる。

平13・4 創立50周年を迎える

第二回日中女流書道家代表作家展

出品者決まる

中国側の強い要請により、毎日書道会との日中女流書道家の交流展が決まった。本年と来年、各二百名が、北京と東京で開催される。

北京展 07年10月 中国美術館

東京展 08年7月 東京都美術館

出品者 (予定)

木村船翠 佐藤菜扇 半田藤扇

石井明子 下谷洋子 飯高和子

砂本杏花 尾形燐鼎 小竹明峰

小林琴水 小伏小扇 青柳明華

川島舟錦 加藤眺溪 太田蓮紅

香川倫子 大井美津江 平岡千

香子 (本院関係 18名)

小野富次さんを惜しむ

元毎日書道会専務理事として敏腕を振るわれた小野富次さんが2月15日逝去された。行年82歳。

予告

『邑水先生臨書集』刊行

旅に出ても筆を離さず、絶えず臨書に専念されておられた中島邑水先生の臨書を村野大仙先生が整理された。

この度、その労作を「中国篇」「日本篇」として出版される。詳細は次号。

私が毎日展海外展委員として仕事を頂いた時のこと。

欧米に、下見や準備にごいっしょさせて頂いたが印象に残るもの一二つ。

○「ベルリンの壁」崩壊の時、たまたまベルリンに居た。郊外のホテルからお祝いの花火の音を聞いた。

○エルミタージュ展では下見と先発でソ連崩壊の前後をレニングラード(現サンクト・ペテルブルグ)で見た。食料不足で、丸谷・鈴木さん、そして私も帰国後次々に痛風を病んだ。アエロフロートの機内食がおいしいと実感した。北アイルランドへの下見の時。

○「書の甲子園」の生みの親である小野さん。

一部の反対を押し切って大阪で「国際高校生選抜書展」を開催、「書の甲子園」もネーミング抜群、15回展を終え、今や全国高校生の最高の目標となった。

旅に出ても筆を離さず、絶えず臨書に専念されておられた中島邑水先生の臨書を村野大仙先生が整理された。

この度、その労作を「中国篇」「日本篇」として出版される。詳細は次号。

前衛書 (六)

北村白琉

読むことを主眼とする実務的な書が
廃れ、年賀状さえも何も書かなくとも、
パソコンであっという間に出来上って
しまう昨今です。反面、読むことを目
的としない人間の感覚に訴える芸術と
しての書は、全盛を迎えているように
思います。

芸術としての書には、線美、造形美、
墨色美、流動美、余白美が求められま
すが、それらの美を最も端的に表現し
ようとした時、前衛書が一番相応しい
のではないかと思われまます。漢字の点
画を省略したら字でなくなってしまう
ますが、前衛書には何の制約もなく、
省略は勿論、文字を書かないことさえ
許されます。それだけに、そこに書の
持つ美が表現されていなければ、書で
はないと言われても仕方が無いので心



第57回毎日書道展出品作品「筍」

北村白琉書

しなければなりません。

孫過庭の書譜の一節に「心手雙暢」
という言葉があります。手はいうまで
もなく腕、書の技術、心は物を見る目
情趣を解する感性、ひいては人間性ま
でも含むのではないかと思えます。

心手とともに伸びやかに育てるために
古典を習うことを根本に、
書に限らずいろいろな分野
の芸術作品を鑑賞し、文学
や音楽、自然に親しみ、感
性を養いたいと思えます。

人間として心を豊かに日
日暮すことに努め、新しく
独創性のある前衛書が書け
るようになることを願って、
長い坂道を登って行きたい
と思えます。

貴重な紙面をいただきな
がら、標題には程遠い、拙
い思いに終始してしまっ
たことをお許しください。

21世紀の書

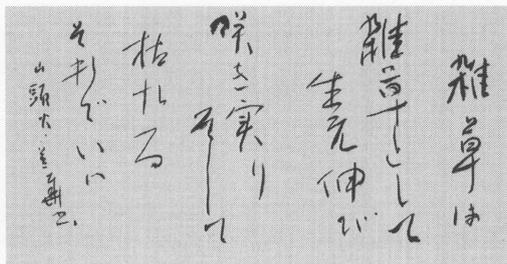
—私の主張—

現代詩文書 (六)

—出会い・これから—

今村菁華

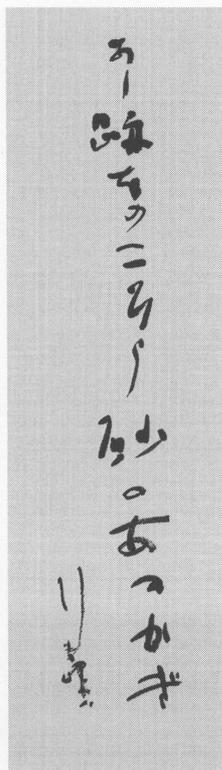
今回で最後となりました。
今月は師三宅素峰先生の作品



今村菁華書

を取り上げさせていただきました。生
前好んで書いていた句です。師はよく
「作品は品格を第一に」「余白の美しさ
を」と何度も申しておりました。白に
負けない凛とした線、見事な構築性、
ご自分独自の世界。長年教えを受けな
がら何一つ会得出来ていない自分のふ
がいなさに、筆を持つことが恐ろしく
なる事があります。道は遠きの感はい
なめませんが、歩いてゆく以外なさそ
うです。

昔、中島邑水先生に「飾りは不用。
捨てて捨てて本当に必要な線は何かを
考えて作品を作りなさい。」と言われ
た事を最近、特に思います。作品作り、
人間としての生き方…これから行く道
を私なりに作品にしてみました。



故・三宅素峰先生書

〔解説〕

模刻本は既に宋代あたりから存在したらしく、明代にも数種の模刻本があった。明の王世貞が持っていたのも重刻本で、一般にはこの模刻本を真本と思いついでいた人が多かったようである。清初の孫承沢の所蔵本も翻刻だったようだが、彼は「この碑は

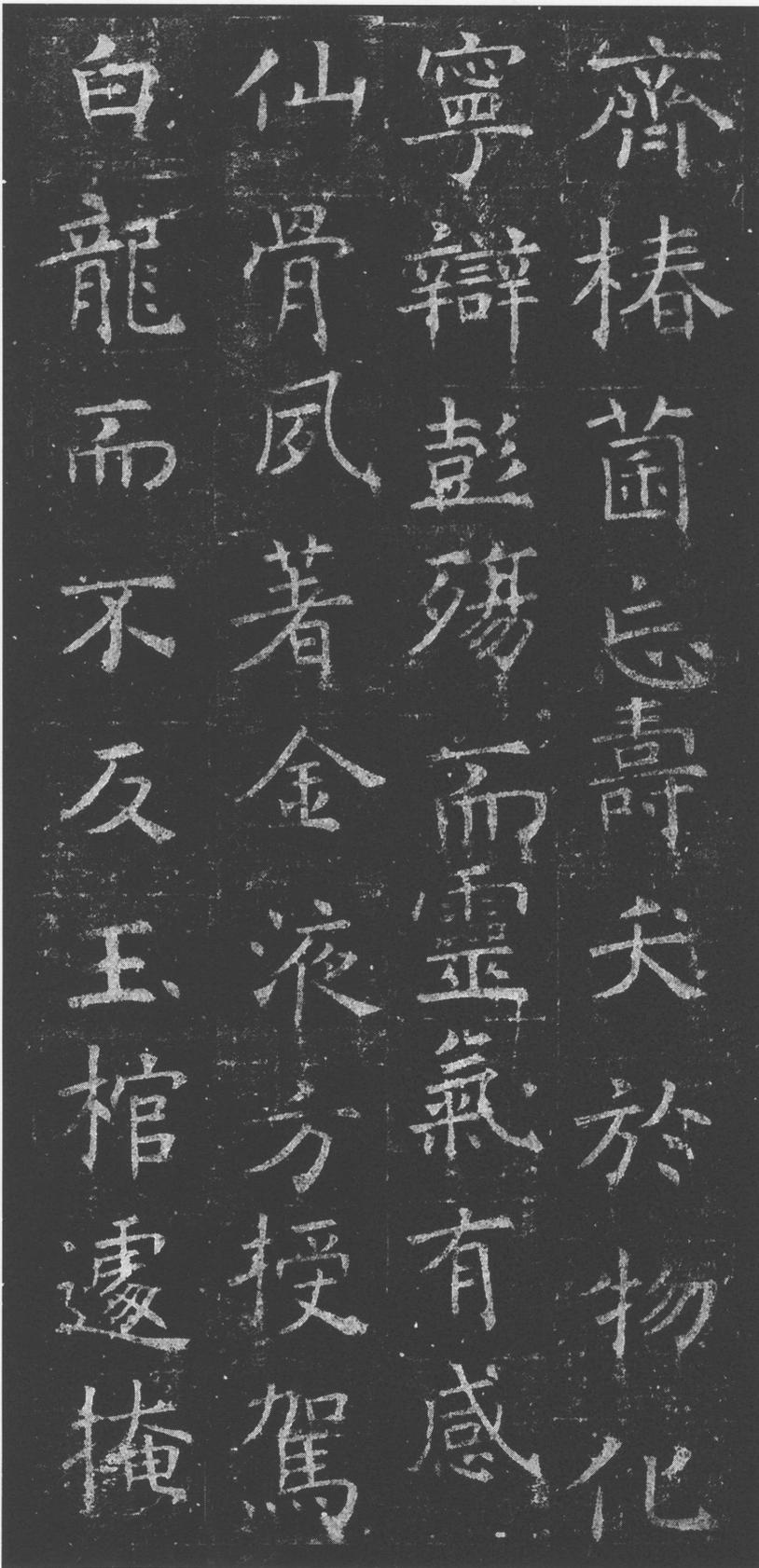
円勁にして深厚、なお古隸の遺意を存し、これその得意の書である」と言っている。我が国へは明治初年、楊守敬が来朝した時、この碑の双鉤填墨本を持参、日下部鳴鶴がこれを木版に刻って広められ、その書風が享受された。

(編集部)

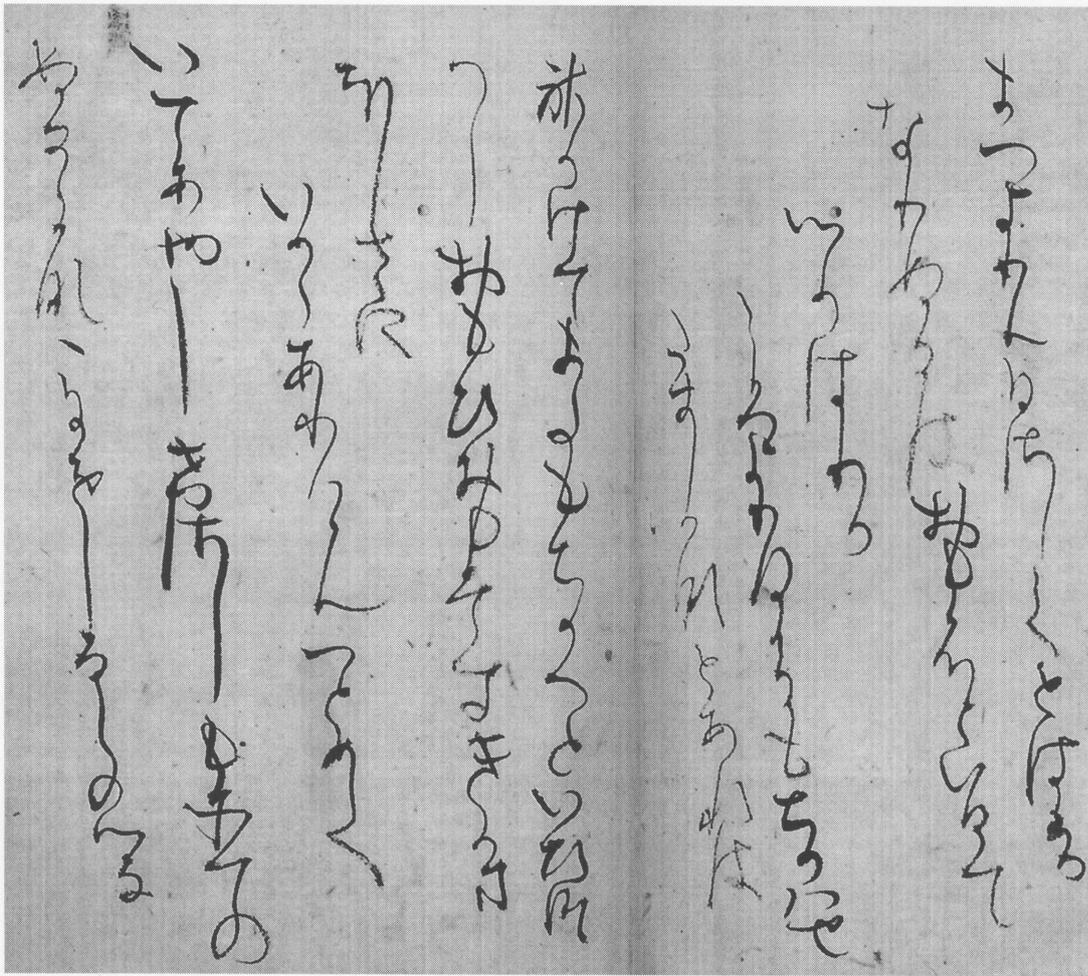
〔注〕

漢字研究部競書作品は、左の法帖の中から何文字臨書してもよい。(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
〇〇臨
(押印のみも可)



齊椿菌忘壽夭於物化／寧辯彭殤而靈氣有感／仙骨夙著金液方授駕／白龍而不反玉棺遽掩
椿菌を齊しくす。壽夭を物化に忘る、寧ぞ彭殤を辯ぜんや。而れども靈氣感有り、仙骨夙に著れたり。金液方に授かり、白龍を駕して反らず。玉棺遽に掩い、



まつよりもひさしくとはず
なりぬるはおもふといひて
心がはりか
ころよりほかにもちかはせ
たましかなとあれば

まつよりもひさしくとはず
なりぬるはおもふといひて
心がはりか
ころよりほかにもちかはせ
たましかなとあれば

神かけてまたもちかへといひつ
べしおもひおもはずきかま
ほしさに
いかざありけむ、つとめて

神かけてまたもちかへといひつ
べしおもひおもはずきかま
ほしさに
いかざありけむ、つとめて

いであやしげさしもそでの
ぬるゝかなゝにをしるしの心な
(るらむ)

注：かな研究部競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

※落款を必ず入れる。署名もしくは〇〇臨(押印のみも可)

用紙

・半紙普通判(料紙可)

〈たて長に使用〉

・半懐紙は、半紙サイズに切って使用のこと。

・別紙を裁断して貼付は不可。

*上記掲載写真10%拡大

〈解説〉

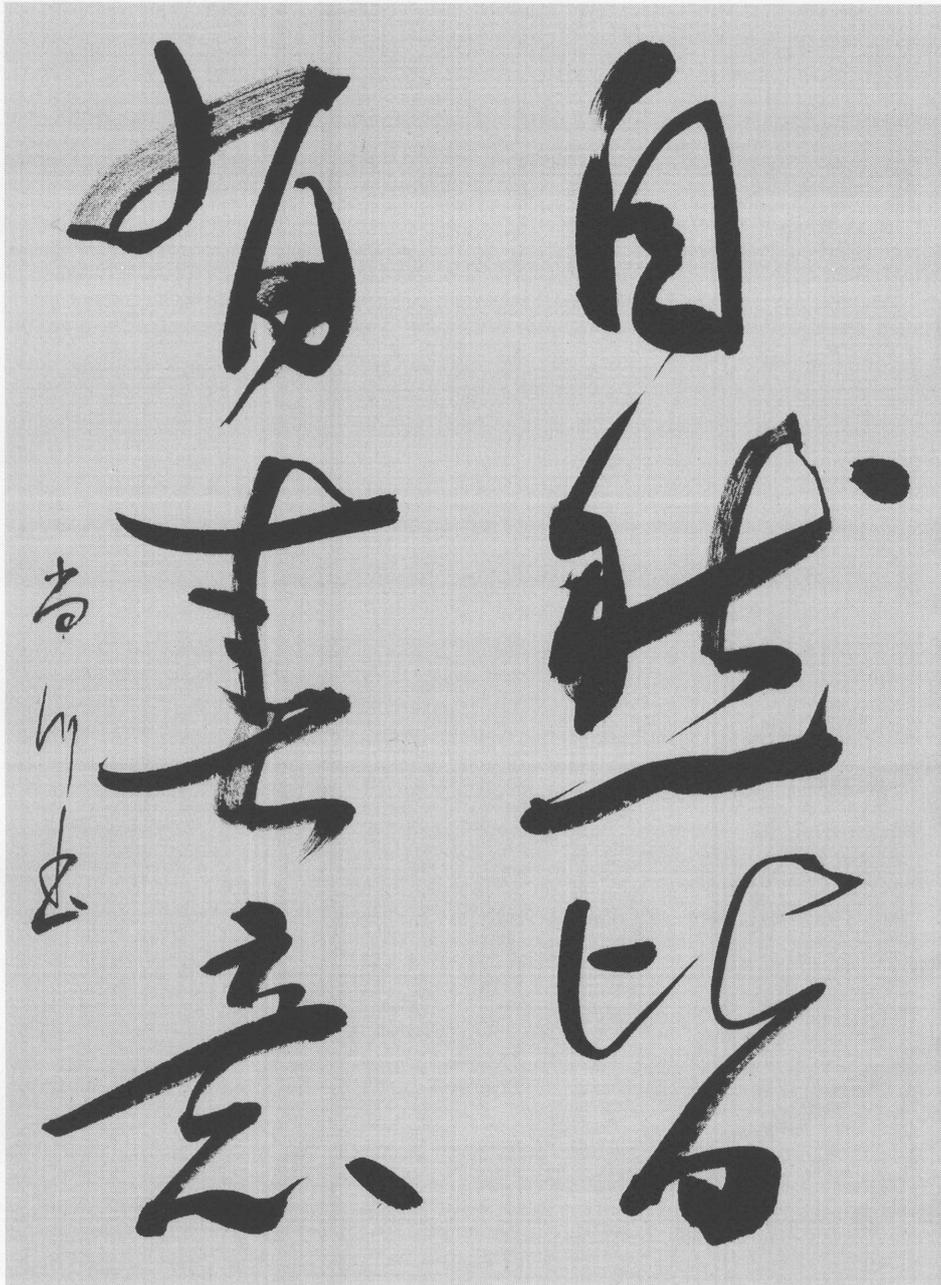
一条撰政集は、字形や行の動きに合わせて巧みな墨継ぎが行われ、さまざまな角度からの多面的な研究に適切でもある。

重心の筋が通りながら文字が横に広がりを見せる書風など、多彩な表現は西行より前の時代の仮名・11世紀末から12世紀前半とされる仮名の造形美と共通するところがある。

藤原伊尹の家集としては、本書の写本以外に伝本がない。この一条撰政集は、会津の松平家に伝来したもので、時期は不明ながら、古筆に詳しい田中親美(1875~1975)を介して三井財閥の経営者・益田鈍翁(1848~1938)が入手した。戦後個人蔵となって今日に至っている。(編集部)

漢字規定 初段以上 【四月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

浜田尚川 選書



自然皆有春意

よみ(自然に皆春意有り)

書体||自由

習い方解説 (六)

浜田尚川

自然皆有春意

(しぜんにみなしゅんいあり)

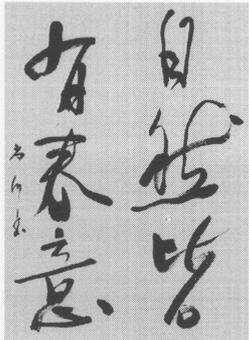
春は陽気が生じ、自然と万物を生ずる。

線を細くし、運筆のリズムがどこまでも続いていくように運び、さわやかな気分を出す。

Aは、より渋く叙情的に表現した。軽く筆をかけ粘ることによって筆を浸透させ味わいを持たせた。

Bは、運筆は粘り、筆は垂直に筆圧をかけた。直線を生かし素朴に。

Aの作品



Bの作品



漢字規定 秀級以下 【四月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

竹田尚堂選書

桃 結

尚堂書

園 義

桃園結義

よみ (桃園結義)

書体 楷書

習い方解説 (六)

竹田尚堂

桃園結義【三国志演義】
(桃園結義)

劉備が関羽、張飛と憂国の情で
意気投合し、桃園で義兄弟の契り
を結んだという故事から出た言葉
です。

智永の千字文は暢びやかな線、
整った字形で、温雅な表情、格調
の高さを見せています。智永は王
羲之七世の孫に当たり、その書風
を得て、虞世南へと伝えているこ
とを納得させられるものです。

智永の羲之の書への思いや、劉
備(漢の景帝の裔孫)が抱いたで
あろう一族再興の願いなどに想い
を巡らしながら、今回の参考は智
永の千字文(関中本)の書風によ
りました。

【園・結・義】は書写体です。